

カラー特集 平成19年度全日本選手権大会…… [2]
優勝インタビュー 全日本各種目優勝者…… [10]
全日本ハイライト 全日本ベスト8入賞者…… [14]

記録 全日本選手権大会…… [16]
マンガ 森高美咲(青森山田中)…… [21]
テクニック 水谷 卓(青森山田高)…… [22]
大会報道 世界ジュニア選手権大会…… [24]
大会報道 ITTFプロツアーグランドファイナル…… [26]
大会報道 関東高校選抜大会…… [28]
レッスン 張一博の「強くなるワンポイント」…… [29]
大会報道 JTTLファイナル4ブレーオフ…… [34]
この人のこの言葉 藤井基男(卓球愛好家)…… [36]
練習のヒント 雄部幸治(ITS三鷹代表)…… [38]
アスリート日記 岡崎 恵(武藏野高)…… [47]
ショップ紹介 トミオカ卓球専門店(東京)…… [53]
記事広告 水溶性接着剤「ファインジップ」…… [54]

ピンポン東西南北…… [33]
第5チャンネル…… [40]
各地レポート…… [42]
ラージボール大会…… [48]
アーブでラージボール…… [48]
カレンダー…… [50]
ショップリスト…… [51]
みんなのコーナー…… [52]
収集室…… [52]
ニッタク講習会…… [56]

Message

「自然体のきれいな姿勢」ということで、水谷隼選手(青森山田高)と石川佳純選手(ミキハウスJSC)の姿勢を参考に、と紹介したことがあるが、技術や戦術を抜きにして、両選手に共通していることは、打球前、打球、移動の時の姿勢が自然体であるということである。いわゆる一般的に言われる前傾姿勢ではない。特に打球の時は身体が立ち、仙骨が前に入っている。仙骨が前に入ることでボールに威力が出る。

70年～90年代にかけて活躍した選手に、クランバ(ハンガリー)という名手がいた。世界では団体とダブルスに

優勝している。79年のビヨンヤン大会で初めて見たとき、スッと立った姿勢に違和感を覚えた。前傾姿勢が正しい姿勢と思っていたからである。ボールに対する反応が速く、ボールの威力も抜群に出していた。80年代からつい最近まで世界的に活躍したワルドナーも同じような自然体の姿勢であった。

水谷、石川両選手に姿勢について質問したことはないが、小さい頃から姿勢を意識したことはない、というのではないか。

卓球における姿勢のあり方について述べてみた。(片野)



表紙
四元奈生美
(東京アート)
平成12年度全日本
女子複2位、平成19
年度全日本混合複2位

撮影・安部俊太郎